

平成25年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1492400138	事業の開始年月日	平成18年12月1日
		指定年月日	平成22年3月1日
法人名	株式会社 リフシア		
事業所名	らいふ松林		
所在地	(〒 253 - 0017) 神奈川県茅ヶ崎市松林2-6-34		
サービス種別 定員等	☒ 小規模多機能型居宅介護	登録定員	25 名
		通い定員	15 名
		宿泊定員	9 名
	☐ 認知症対応型共同生活介護	定員計	名
		工口数	工口
自己評価作成日		評価結果 市町村受理日	平成26年12月11日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

「心を添えてともに生きる」の理念のもと、職員一人ひとりが懇切丁寧なケアの提供を心掛けております。その人らしく最期まで自宅での生活ができるようきめ細かく日々のアセスメントに基づきオーダーメイドのケアを行います。アセスメントはセンター方式とN式のADL・メンタルスケールを活用し、ケアプランは小規模多機能型居宅介護のライフサポートワークを適用しています。サービス提供はケアプランからフォーカスチャートした形で実施しております。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	公益社団法人 かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区本町2丁目10番地 横浜大栄ビル8階		
訪問調査日	平成25年9月30日	評価機関 評価決定日	平成25年11月25日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

【事業所の概要】 この事業所は、JR茅ヶ崎駅からバスで10分ほどの「松林2丁目」バス停からすぐの住宅街の中にある。建物は木造2階建てで、リビングはキッチンをはさみ、利用者が居心地のよい方へ自由に行き来ができる空間となっている。ウッドデッキへの掃き出し窓は引き込み式になっておりリビングの延長で広々と感じられ日光浴も楽しめる。法人は小規模多機能事業を市内に4箇所展開しており、市内他事業所とのネットワークができています。
【理念の共有と実践】 法人の運営理念を基に職員全員で毎年事業所独自の具体的な目標を立てている。今年は「私たちの仕事への思い」を作成した。職員は理念を記載したクレドカードを持ち、仕事に入る前に復唱している。理念や目標と共に5つの行動指針が有り、理念は実践することが大事と理解している。職員はケアが困難な利用者の思いをチームワークで受け止めるなど現場で意識して取り組んでいる。
【チームで作る介護計画とモニタリング】 法人で記録のIT化を進めタイムリーな情報の共有化を図っている。リーダーを中心にチームでモニタリングを行なっている。結果は計画作成担当者に伝え、本人、家族への聞き取りや関係者の意見を基に、都度見直し計画に反映している。利用者毎に機能訓練計画を作成し、活動内容によって通いの日を決めるなど現状に即した支援内容となっている。
【重度化や終末期に向けた方針の共有と支援】 利用開始時より「看取りに関する指針」を説明し話し合いを重ね4名の看取りを行った。法人で毎年合同研修を実施している。職員は医療職と連携し、方針を共有し日常のこととして支援に取り組んだ。正面玄関に献花台を設け他の利用者は職員と共に穏やかに見送っている。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	らいふ松林
ユニット名	

アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23,24,25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18,38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30,31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9,10,19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11,12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「心を添えて共に生きる」理念と行動指針は各自クレドカードとして所持し、仕事に入る前復唱する。定期研修で理念の理解と共有を行っている。事業年度の始めに個人目標の中に理念に基づいた目標設定も立てられる。	法人の運営理念を基に職員全員で毎年事業所独自の具体的な目標を立てている。今年は「私たちの仕事への思い」を作成した。理念や目標と共に5つの行動指針があり、理念は実践することが大事と理解している。職員はケアが困難な利用者の思いをチームワークで受け止めるなど現場で意識して取り組んでいる。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会への参加や、福祉体験、地域のコミュニティセンターでの料理教室、地引網などの体験、ボランティア（歌や園芸、中学生の福祉授業等）の受け入れなど、交流に努めています。	自治会に加入し、地域の祭りや餅つき大会などの行事や防災訓練に利用者は職員と共に参加している。事業所の夏祭りに地域の住民が来訪したり、ボランティアの受け入れも積極的に行っている。講師を呼んでの料理教室や中学生の福祉体験学習、茅ヶ崎公園の花植えに呼ばれるなど利用者の楽しみとなっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	夏祭りなどの、季節行事を通じて、地域の方が立ち寄りやすい雰囲気作り（かき氷やワタ飴を配る等）に努めています。急な介護相談にも、親切な対応を心がけています。また、他事業者の研修の受け入れなども行っています。			
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員・市の担当職員・包括支援センターの職員・家族代表の方々に参加していただき、2か月に一度、定期的に行い、活動状況報告は写真等を交えて、情報交換しています。防災関連の情報交換が多く行われています。	2か月に1度開催している。事業所から運営状況や活動報告を行い、出席者から意見をもらっている。外部評価結果も手渡している。地域の防災意識は高く、災害時の介護事業所としての在り方について話し合いを行っている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	茅ヶ崎市サービス事業者連絡会・地域密着事業所部会の中小規模多機能型事業所の意見交換が行われています。オブザーバーとして茅ヶ崎市職員は参加しています。市の意向として茅ヶ崎市の意見はその場で発言しない決まりになっています。	市の高齢福祉課職員が運営推進会議やサービス事業者連絡会に毎回出席している。その中で事業所は取り組みを積極的に伝えている。市主催の研修に職員が参加している。地域包括支援センターとは困難事例の相談を通して連携している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所内の事例などを元に、「身体拘束委員会」主体で、防止対策や対応策を検討し、共通認識が持てるよう努めています。お客様の安全性に配慮しながら、自発性を損なわないケアができるよう取り組んでいます。	年に4回事例検討を含めて研修を行っている。スタッフ会議で「拘束にあたるかどうか」を常に検討し、正しい理解に努めている。不意に外出する利用者には職員が見守り気づくようにしている。玄関は日中は鍵をかけていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「虐待防止委員会」を主体に、定期的な研修を行い、正しい理解ができるよう努めています。お客様の気持ちを第一に考え、お客様を尊重した対応を心がけています。身体状況の変化にも、早い段階で気づけるよう努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年間研修計画の中に位置づけ、定期的に、学ぶ機会を設けています。必要性があるときには、関係者の方々と話し合い、支援しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、解約又は改定時には、十分な時間をとり、理解・納得が得られるよう取り組んでいます。また、お客様の疑問や不安点にも、丁寧な対応を心がけています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	法人・事業所それぞれに、家族へアンケート用紙を配布し、意見・要望を伺っています。また、送迎時や毎日の連絡ノートのやり取りの中でも、意見や相談事などを伺い、反映できるよう努めています。介護相談員の受け入れなども行っています。	2か月に1度の家族へのアンケートや連絡帳、自宅訪問時に意見や要望を聞き、すぐ対応するよう努めている。家族から歩く機会を増やして欲しいという要望があり、職員間で検討して歩行ラリーの取り組みに反映させた。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○ 運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な個別面談や、スタッフ会議などの場で、職員の意見や提案を聞く機会を設けています。また、普段から、相談しやすい雰囲気作りを心がけています。	職員の意見や要望は、スタッフ会議や年に1度の職員アンケート、個別面談などで、聞く機会を複数設けている。スタッフ会議では、毎月業務改善のテーマを決めて全員で問題点を検討している。管理者は日頃から職員とコミュニケーションを図るように心がけている。	
12		○ 就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事制度の構築によるキャリアパス作成や研修など、働きやすい職場環境・条件の整備に努めています。 また、代表者は職場を視察し、状況確認や職員の相談業務を行っています。		
13		○ 職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修は月1回行っています。 また、OJTのマニュアル導入により、更に安定したトレーニングが受けられるよう努めています。法人内でも、定期的な研修や人事制度研修、内部監査などにより、法令や運営基準の徹底など行っています。		
14		○ 同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	夏祭りなどの行事開催時に、近隣の同業施設の方に参加していただいたり、地域で開催される研修会や集いなどに参加し、ネットワーク作りや情報交換に努めています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○ 初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期の段階より、本人や家族の困りごとや、要望、先々の意向などを伺い、家族と協力体制を作りながら、本人の安心、要望などを確保できるような関係作りに努めています。		
16		○ 初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス開始時は、電話や来所など、話し合いの機会を設け、家族が抱えている不安や、困りごと、要望を早期に把握できるように努めています。		
17		○ 初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	話しやすい雰囲気作りに努め、必要としている支援を見極められるよう努力しています。また、必要に見合ったサービス利用の提案ができるよう努力しています。		
18		○ 本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の意向や思いを大切に考え、出来ることを見極めながら支援できるよう、信頼していただける関係づくりに努めています。		
19		○ 本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	自宅での様子や、こちらでの様子など、情報交換を行いながら、本人の生活を一緒に支えていく関係性を築けるよう努力しています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○ 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	訪問時の支援では、近隣の馴染みの方との立ち話や、ご自宅の庭の手入れ、生活習慣支援としては、選挙への投票や、自宅での洗濯などの支援を行っています。その他、生活用品や食品の買い物、外食などの支援を行っています。	在宅での馴染みの関係の把握を大切にしている。花が大好きな利用者の庭作りを、職員は家族と共に支援し自宅の環境整備として行った。地域の商業施設への買い物や、ファミリーレストラン、回転寿司への外食など、つながりを継続できるよう努めている。	
21		○ 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お客様同士の相性や、体調、状況などを考慮しながら、一人ひとりを大切に、楽しんで過ごしていただけるよう配慮しています。また、グループワークなどを通して、お客様同士の関係性が築けるような支援に努めています。		
22		○ 関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了時や移行時など、関係機関への連絡、調整を行っています。また、必要に応じて経過のフォロー、相談などにも対応しています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○ 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ライフサポートワークを使用し、本人の意向や希望などを把握し、日々のケアの目標としています。また、困難な場合にも、家族と十分に話し合ったうえで、本人本位であるよう努力しています。	在宅でのアセスメントは課題として重要視している。センター方式に加え、N式のアセスメントツールを使用し、チームで検討している。困難な場合も、本人や家族からの聞き取りを中心に、機能訓練を行うセラピストも加わり本人本位に検討し話し合っている。		
24		○ これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの聞き取りや、観察を行い、本人のこだわりや、暮らし方、生活歴の把握に努めています。			
25		○ 暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	家族とのカンファレンスや、日々の連絡ノート、訪問・送迎時など、情報収集に努め、現状の把握をしています。N式アセスメントスケールを利用し、状態の変化を把握しケアに生かせるよう努めています。			
26	10	○ チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	お客様と職員をグループ分けし、月に2回のモニタリングを実施しています。そこで、話し合われた課題などは、ケアを通して、介護計画に反映しています。更に3カ月に1度、常勤会議にて内容の確認・検討を実施しています。	法人で記録のIT化を進めタイムリーな情報の共有化を図り、リーダーを中心にチームでモニタリングを行なっている。結果は計画作成担当者に伝え、本人、家族への聞き取りや関係者の意見を基に、都度見直し計画に反映している。利用者毎に機能訓練計画を作成し活動内容によって通いの日を決めるなど現状に即した支援内容となっている。		
27		○ 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録の方法がIT化されたことにより、情報の共有がタイムリーにできるようになっています。また、気づきや工夫については、その都度、話し合いの機会を作っています。			

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療的処置が必要な方の訪問サービスに看護職が対応しています。また、家族の体調不良時などの、宿泊や通所の緊急依頼なども、お客様の状況に合わせて対応できるよう努めています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	朝食や昼食の買い物のため、近隣のスーパーへ買い物に出かけたり、選挙の投票へ出かけたり、自宅での生活が、安心して継続できるよう支援しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は以前からのかかりつけ医や、本人・家族の希望により決定しています。施設での往診も行っていますので、医療機関とも密な連絡を心がけています。また、夜間のオンコール体制もできています。	以前からのかかりつけ医に受診している。受診は原則家族が対応し、結果は看護日報に記載し情報の共有化に努めている。必要な場合はケアマネージャーや介護職員が受診に付き添い、薬の変更などの情報を得ている。日中常駐する看護師が医療機関とのやり取りや日々の健康管理を行っている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の関わりの中で、得た変化や情報は看護職員に小まめに報告しています。看護職員は医療機関、家族と相談しながら、適切な医療が受けられるよう支援しています。24時間オンコール体制もできています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	月に1回、情報提供などを兼ねて、医療機関に訪問に伺っています。また、入・退院の時にも、相談員の方や在宅調整看護師の方と連絡を取り合い、密な関係作りに努めています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期の在り方については、利用契約時より、話し合い意向をくみ取れるよう努力しています。また、状態が変化したときにも、家族や本人の思いを再確認し合い、納得できるよう努めています。	利用開始時より「看取りに関する指針」を説明し話し合いを重ね4名の看取りを行った。法人で毎年合同研修を実施している。職員は医療職と連携し、方針を共有して日常のこととして支援に取り組んだ。正面玄関に献花台を設け他の利用者は職員と共に穏やかに見送っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDの設置や、CPR研修などを定期的に行い実践力を身に付けています。また、急変や事故発生時のマニュアルなどを作成し、個々のお客様の状態に応じた対応ができるよう準備しています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人として年2回のBCP訓練を行い、事業所での、総合避難訓練・夜間避難訓練などを行っています。また自治会の防災訓練に参加させていただき、地域との協力体制が築けるよう努めています。	年2回の避難訓練や、夜間想定の抜き打ち避難訓練を隔月行ない、利用者も参加して避難方法を身につけている。運営推進会議などで災害時に事業所を避難場所とするなど地域との協力関係を築く取り組みを検討している。発電機を備え、備蓄は食料、飲料水など3日分ある。地域住民には、消防団の行事参加を通じて声かけをしている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「接遇・マナー研修委員会」を設立し、職員間で目標を決め、毎月、振り返りの機会を設けています。お客様の人格を尊重した言葉かけや対応に気をつけ、ケア時もプライバシーを損ねないよう配慮しています。	毎年、接遇やコンプライアンスの研修を実施している。入職時には新人研修ガイドラインを基にマンツーマンで指導している。職員は接遇について各自で目標設定し自己評価チェック表で毎月振り返り確認している。個人情報を含む書類は事務所の鍵のかかるキャビネットに保管している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望や思いを第一に考え、自己決定しやすいような言葉かけや、対応を心がけています。本人の出来ること、出来ないことを把握し、思いを表出しやすいような、環境作りに努めています。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お客様の生活習慣を大切に、ペースを乱さないよう配慮しています。体調や、居場所、入浴や食事の時間、午睡の時間など、個々の希望に沿って、その日を過ごしていただけるよう努力しています。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	普段から使用されていた、化粧品などの使用や、好みの洋服選んでいただいたり、おしゃれを楽しめるよう配慮しています。			
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎月、昼食パーティールームを行っています。食器やテーブルクロスをいつもと違うものにして雰囲気を変えたり、バイキングや、おにぎり作りなど、選択、作ったりが楽しんでできるよう工夫しています。	大震災時の食材の調達に不安があったことから食材業者から食材を購入し専門職員が調理を行っている。職員は同席して利用者が食べやすいように工夫して提供している。誕生会のケーキや正月のおせちなどの行事食を利用者が手伝い職員と手作りしている。天気の良い日はウッドデッキでの食事を楽しんでいる。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分は摂取量を記録に残し、チェックをしながら、必要量を確保できるよう努めています。体調や口腔状態・疾患に合わせて、形態や量などの変更を行い、状況に合わせた支援を行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の口腔状態に合わせて、毎日のケアを行っています。歯科往診も、お願いしているので、日々のケアの方法や、経口摂取に向けてのトレーニングなども指導していただいています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	自宅での様子を伺い、排泄習慣やパターンを把握できるようにしています。夜間帯や日中など、職員間でも、情報を共有し、一人一人のお状態にあわせ、自立に向けた支援を行っています。	連絡帳や訪問時の在宅の様子や、介護日報で排泄パターンを把握し、職員間で情報を共有し誘導してトイレでの排泄を促している。前傾姿勢での支持バーや便座の背もたれを工夫し、自立に向けた個別の支援に努めている。パッド類も利用者に合わせて検討している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自宅での排泄状況を伺い、家族と共有し、便秘の予防に努めています。施設内では、水分摂取量や排泄状況を記録し個々の把握に努めています。散歩や歩行ラリーなど、適度な運動も心がけています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	基本としては、1対1の入浴を行っていますが、気の合う方同士、にぎやかな雰囲気でも過ごしていただいたり、入浴剤などの利用により、楽しみごととなるよう工夫し支援しています。週に1度の体重測定や、身体チェックを行い、お客様の体調変化にも注意を向けるよう努めています。	入浴はマンツーマンでできるだけゆったりと入ってもらおうよう努めている。時間帯は固定せず10時半から15時半頃までに入ることができる。介助しやすい広い浴室に、家庭用とリフトつき浴槽の2つがあり、状態に合わせた入浴の支援をしている。ゆず湯や菖蒲湯などを楽しんでいる。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の体調や状況に応じて、また、日頃の生活習慣を家族と共用しながら、本人の生活ペースを崩さないよう配慮しています。夜間も足浴やアロママッサージなどを行い安眠できるよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	副作用や目的、用量などをまとめた服薬管理シートを作成し、看護職・介護職2名の、計3回のチェックのもと、服薬していただいています。服薬方法や支援の仕方も、個々の状況に合わせて行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や趣味などを考慮し、お客様の力を生かしたグループ作りをしています。毎日のグループワークの中で、継続性を持って、楽しみごとが続けられるよう支援しています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お花見や地引網などの季節行事や、地域で行う盆踊り大会やお月見などへの参加など、地域の方々の協力を得ながら外出支援を行っています。個々の趣味や好みに合わせての外出も行っています。	地域行事へ車椅子の利用者も参加している。車椅子を押してくれるなど地域住民の協力がある。ドラッグストアでの買い物やペットショップ、外食など個別の外出支援を行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持ができる方には、希望に応じて、買い物の支援を行っています。また、家族と相談しながら、お金を使えるように配慮しています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話の支援等のほか、スタンブや版画などを使用し、年賀状や暑中見舞いなど、季節ごとに家族へ郵送しています。また、レクで作成した作品なども、まとめて、「作品集」としてお渡ししています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の場所には、夜間でも混乱が少ないように、場所の表示をしています。月ごとに貼り絵でカレンダーを作成していただいたり、ウッドデッキに出て、植物の観賞をしていただきながら、季節感を感じていただけるように努めています。	キッチンをはさみ、両側に位置したリビングは利用者が居心地のよい方を選べ視線を避けることができる空間になっている。利用者の手作り貼り絵の大きなカレンダーは生活感が感じられる。季節感を感じるウッドデッキの鉢花は常に咲いている状態になるように入れ替えている。ウッドデッキはリビングの延長と考え、掃き出し窓は引き込み式で天気がよいときは全面開放にして日光浴を楽しんでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	好きなTVの時間など、本人の生活習慣に合わせて、居場所の提供をしています。また、空いている居室や、和室などを利用し、ゆったりと、寛いでいただけるよう工夫しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、家族の写真や手紙など、馴染みのものを置き、落ち着いて過ごせるよう工夫しています。布団で休まれる習慣のある方には、和室を利用していただくなどの配慮をしています。	宿泊室は9室有り、和室と洋室の選択ができる。エアコン、ベッド、タンスが備え付けられ、家族写真などの馴染みの物を持ち込める。泊まりの部屋は生活感が伝わるようにリビングと同じ1階に配置している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	室内の環境整備に努め、お客様の出来ることを妨げないように、センサーマットや、ナースコールを利用しながら、安全に自立した生活が送れるよう努力しています。		

目 標 達 成 計 画

事業所名 らいふ松林

作成日 25年 12月 11日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1		サービス量全体の4割程度が訪問サービスとなっている。質の向上とバランス良く、安定的に提供できることが課題となっている。サービス内容も画一化しやすくなっている為、お客様のQOL向上のためには、サービス内容の多様化・充実が求められる。	自宅でできること、本人の思いを中心に地域資源などを活用し、訪問サービス内容を充実させていく。	現状のケアプランの見直し・評価、および、人員配置の工夫を行い、他職種協働しながら、ご本人や、ご家族にとって必要性のある訪問サービスの内容を検討していく。	
2					
3					
4					